



NEWS!

2003.6月号

発行：NPO法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク ●〒541-0046大阪市中央区平野町3-1-7大阪屋セントラルビル6F
●年会費1口2000円（個人1口以上、学生半口以上、団体3口以上、賛助会員（会社）5口以上） ●郵便振替00920-8-154437
●<http://www.mmjp.or.jp/gcon/> ●gcon-osaka@mail.goo.ne.jp

G-CON2003年総会 記念講演

—食品残渣のエネルギー化システムについて—

大阪は食い倒れの街、ミナミの飲食店で出る食品の食べ残しや食材の残渣（ざんざ）は、なんと1日140トン（2トントラックで70台が早朝深夜にミナミの商店街を）という。「食べ物を粗末にしたらバチが当る」と言われて育ったし、子供や後輩にもよく言う言葉だが、現実には途方もなく膨大な量が捨てられ燃やされています。「こんなことしてたら、ほんまにバチがあたるで」とアメリカ村の森本会長が呼びかけて、ミナミの街から発信するコジェネレーション（生ごみ発電）の具体化を提案していただきました。（3月11日）

1	各店舗は生ごみと一般ごみを別ける
2	生ごみ専用回収車の導入
3	第1次工程で生じるごみの含水率を下げるシステムの導入
4	軽量化したごみを高熱処理サーマルリサイクル工場へ搬入
5	電力発電の開始

以上のような手順がいきます。

この日は、この工程に関わる回収業者・軽量化ごみの輸送会社等も参加され、即実践できるシステムの提案がありました。私たち日常の営みである「食」をエネルギーに結びつける発電方法は、グリーンコンシューマーにとって納得であり、理に適う手法であると言えます。市民発電としてグリーンコンシューマー大阪ネットワークも今後検討していきたいと考えます。失業率が8%を超える大阪では、新しい雇用の創出の観点からも、斬新なアイデアを取り入れて、大阪の街がきれいで活気があり賑わいがある街に市民がしていくことを、紙面で提案していきます。実践型の1年として、皆様に呼びかけます。

私も参加OKの方、ご一報下さい。

2003年度 役員体制

代表 山口百合子 副代表 土肥將嗣
理事 荒山啓司・坂本茂代・末田一秀
・中澤洋子・橋本紀子・三村真由美
会計監査 大林輝

よろしく願います。